

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信



第36号

2017.12 vol.36



六本木ミッドタウン



CCクラブ定期総会



佐久医療センター研修旅行



みなと区民まつり



港区地域福祉フォーラム

CONTENTS ■ ごあいさつ

赤坂地区総合支所協働推進課長

山田 吉和

麻布地区総合支所協働推進課長

鈴木 健

■ 2017年度CCクラブ第2回定期総会・

ホームカミングデイ・交流会

■ 2017年度CCクラブ国内研修旅行

佐久医療センター

■ 秋のイベント特集

■ 運営委員会報告・活動計画

皆さんとともに、地域コミュニティの発展を。 地域を舞台に、更なる活躍を応援します！

赤坂地区総合支所協働推進課長 山田 吉和

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんには、住みやすい地域の実現に向けて、地域活動や区の事業などに積極的に参画、協働いただき、区のパートナーとしてご活躍いただいておりますことを職員一同、大変感謝しております。



赤坂地区では、区民参画組織「赤坂・青山地区タウンミーティング」において、地区版計画や地域の魅力の発掘・発信など、地域の課題解決のため区民参画による検討を深め、様々な取り組みを提案、実施しています。この区民参画組織には、チャレンジコミュニティ大学修了生も参画されており、豊富な経験やノウハウからご提案をいただき、赤坂・青山のまちの魅力のPR手法などに着実な成果が生まれています。

総合支所では、地域の活動などを通じて地域の方々々と接する機会が多くありますが、よく耳にすることは、担い手が不足し思い通りの活動ができない、次の役員のなり手がいない、町会員がなかなか増えないなど、ということです。オリンピック・パラリンピックを控え地域の活力が大切な要素となっている今、町会・自治会や地域活動などのコミュニティの担い手不足ということが一番の課題と感じています。

区内には、さまざまな技術や技能を持った人が多く、また、多種多様な分野の企業が存在します。CCクラブのお力をお借りし、これからは、そういった人材・企業などの地域の資源を町会・自治会など地域のコミュニティに結び付け、新たな発展に繋げていくことが大切であると考えています。

CCクラブの皆様をはじめ、地域の皆様とともに、未来に向け共存できるまち赤坂・青山を目指し、コミュニティの醸成・発展に取り組んでまいりますので、今後も、お力添えいただくようお願いいたします。

麻布地区総合支所協働推進課長 鈴木 健

「土日もないでしょう。」「いろいろな人がいるから大変じゃないですか。」



協働推進課の職員が、防災や防犯、環境美化など、区民のみなさんとの活動で、よく掛けていただく言葉です。恐縮の限り

ですが、そんな時、私は「皆様方こそです！気苦労やら骨折り、大変じゃないですか。私達は皆様が寄せていただく信頼に応え、出来る限りのことをするばかりです。」とご返事しております。

自分達のまちを、ともに安心して暮らせる舞台とするため、地域のコミュニティリーダーとしてご活躍され、また多大な労を執られているチャレンジコミュニティ・クラブの皆様には、この場を借りてあらためて敬意と感謝を申し上げます。

今、港区は、すべての世代で人口が増え続け、転出者を上回る方々が転入している状況です。町会・自治会や防災組織といった、これまで地域で核を成してきたコミュニティに変化の大波が寄せるとともに、人々の地域での暮らし方、関係性自体が大きな変革を迎えています。

地域で生じる様々な課題の解決のためには、地域の多様な主体が主人公となって、「我が事」として参画し、世代や分野を超えてつながる「地域共生社会」を実現していくことが必要です。私達協働推進課も、地域の皆さんとの参画と協働を柱に、地域一丸となった共助の仕組みづくりに汗をかいてまいります。

チャレンジコミュニティ・クラブのみなさんが、今後も、港区を舞台に更なるご活躍をされますことを御期待するとともに、職員一同、「協働推進」の名に恥じないご支援を続けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2017年度 CCクラブ第2回定期総会・ホームカミングデイ・交流会

6月17日（土）、14時より明治学院大学白金校舎2301教室にてCCクラブ第2回定期総会、ホームカミングデイそして夕方にはパレットゾーンにて交流会を開催しました。また、総会会場受付周辺ではボランティア活動の紹介パネルが展示されました。

CCクラブ第2回定期総会

定期総会は定刻14時に105名が参加し開始しました。丸山保夫副代表（7期）の司会で始まり、来賓の高輪地区総合支所、明治学院大学の皆さまを紹介し、永野茂洋明治学院大学副学長から挨拶をいただきました。その後、司会が議長に斎藤正精代表（6期）を推薦し、出席者に承認され議事を進行しました。

議題

- 第1号議案 2016年度活動報告
- 第2号議案 2017年度活動計画（案）
- 第3号議案 規約改定の件
- 第4号議案 役員選任の件

第1号議案は丸山副代表がスライドを使って1年の活動を紹介しました。第2号議案では運営方針として「クラブの活動をより活発化させ、CCクラブの継続・発展性を高めていく」ことを議長が示しました。第3号議案と第4号議案については議案書に基づいて審議され、各議案ともに出席者の拍手をもって承認されました。最後に2017年度の新役員が紹介され、15時に閉会となりました。議案の詳細についてはホームページをご覧ください。



総会会場での議案審議

2017年度ホームカミングデイ

15時30分に企画部岩村道子さん（1期）の司会で

開始しました。

講演者は高橋洋子北里大学名誉教授で、テーマは「2015年度ノーベル生理学・医学賞受賞者大村智先生の人となりと微生物の魅力に魅せられて」でした。

専門的な内容で難解でしたが、大村先生と高橋先生が出会いの時から強い師弟関係であった話、微生物の説明とノーベル賞受賞の対象となったエバーメクチン研究を丁寧に説明していただきました。

主な講演テーマ

- 微生物って何？
- 大村智博士にノーベル生理学医学賞をもたらしたエバーメクチンはどのようにして発見されたか
- 北里柴三郎門下生や北里研究所の研究者による主な感染症関連の業績
- エバーメクチンとメクチザン
- 微生物研究と大村グループで発見された新規微生物と新規化合物
- 大村先生の腹中有書
- 節目節目に大村先生にいただいた言葉



講演する高橋洋子先生

CCクラブ交流会

17時30分よりパレットゾーンにおいて平岩力企画部会長（4期）の司会で行われました。

冒頭、斎藤代表が挨拶をおこない、高輪地区総合支

所協働推進課大澤鉄也課長の乾杯で交流会がスタートしました。

新しく仲間になった10期生の紹介と挨拶の後に、7期3グループ「ななみづき会」の手話の歌があり、続いて特別参加の金子琴枝さんの「語呂合わせで『喜びの歌』！」がありました。皆さんの地域や期を超えた賑やかな交流が行われました。



10期生の皆さんの挨拶

CCクラブ総会・ホームカミングデイ に参加して

10期 綾木 和雄

6月17日に「CCクラブ総会・ホームカミングデイ」に、10期生として出席させて頂きました。

此の度は北里大学名誉教授高橋洋子先生より、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智博士の業績やお人柄についての興味深い講演をうかがいました。土壌から採取した微生物が作り出す化学物質を研究された経緯と、薬品開発により多くの人々を失明から救った話に深く感銘致しました。

4年前から、私は港区教育委員会より委嘱されたサイエンス・アシスタントとして、区立御成門小学校で理科教育の支援を行っています。理科室には大村博士がノーベル賞を受賞された時のポスターが貼ってあり、高橋先生の感動的な講話を子供達に伝えて、理科に興味を抱く機会にもしたいと考えています。

また、ホームカミングデイは飲み物と軽食が準備され、CCクラブ諸先輩の皆様方と誕生月毎に集う楽しい団欒で、有意義なひと時を過ごしました。

10期 池畑 博実

何かを成し遂げる力の源はやはり「人」。言うまでもないことかも知れませんが、講演を拝聴して感じたことです。

お話の中の学術的なことは、理解できないことも多かったのですが、講演のテーマ「大村智先生の人となり」と微生物の魅力に魅せられて」のストーリー展開の中で欠くべからざる触媒になっていると思いながら、大村先生の人となりや高橋先生ご自身のエピソードに興味深くお聞きしました。やる気を起こさせるのが上手な人（大村先生）が自分からやる気を出す人（高橋先生）を、慈愛に満ちたまなごしで支えたとも伺いました。その結果、高橋先生は紛れもなく大村智博士のノーベル賞受賞を支える重要な役割を担ってきたおひとりです。交流会の場で、幸運にも高橋先生とお話しをすることが出来ました。偉業を成し遂げた多くの人々がそうであるように、気取らず気張らない雰囲気をお持ちの方でした。

こういった貴重な存在に結びつき、講演会にお招きする手はずを整えることができるCCクラブの人材の多様性、奥深さにも感心しました。

10期 大沼 礼子

講演を聞いてから少し間が経ち、記憶がやや薄れていますが、高橋先生が事務職のつもりが偶然に研究助手の配属で働き始め、努力を重ねて女性研究者として、地味だが果敢で継続的な研究姿勢を貫き通してきたことに感動しました。

大村博士は日経新聞の「私の履歴書」で、定時制高校の教師の職に就きながら、大学院に進まれたとありました。常に研究に邁進し、女性を大切にする姿勢や、風土病に苦しむ人々への貢献も素晴らしいと思っていました。

その大村博士と高橋先生の出会いは偶然ではあるが、やはりまれにみる運命的な出会いと思えます。エバームクチン発見等の研究の話は難しいが、分析と培養、未知の菌の発見と先生の明るい人柄に包まれての話は、有機化学の構造式もわかったように感じながら、楽しく聞きました。ノーベル賞受賞のお祝いのシャーレの中に培養され増殖した菌を模したケーキも、ユーモアたっぷりです、思わず笑ってしまいました。

大村博士の名言集として紹介されたなかで「^{じっせん}実践^{きゅうこう}躬行」、^{きゅうこう}「挑戦なくして発見なし」の言葉通り、博士の研究を支え、ご自分の研究も進めて来られたことに敬意を表します。

2017年度CCクラブ国内研修旅行 「佐久総合病院の歩みと地域づくりの方法を学ぶ研修旅行」

9月14日～15日に国内福祉研修旅行として、明治学院大学河合克義教授の引率・指導、社会連携課加畑慎一課長が同行し、合計9名で佐久医療センターを訪問しました。気候にも恵まれ、在校時の授業の復習と同時にそれ以降の佐久総合病院の取組みがより一層進化していることが確認でき、大変有意義な研修でした。

9月14日（木）

13時30分に佐久平駅に集合後、宿泊旅館・菱野温泉常盤館到着。15時より講師に依田発夫先生（元長野大学教授・元小諸厚生総合病院事務局長・CC大学講師）を迎え、「佐久総合病院と我が地域づくりの極意」の講義がありました。

講義内容は、1. 厚生連（JA）の生い立ち、2. 佐久総合病院と若月俊一先生、3. 若月イズムを規範とする地域の諸活動、4. 長野県内の事例紹介でした。

佐久総合病院は昭和19年に赴任した若月俊一先生の「農民とともに」の考えで始まり、現在は「地域とともに」の考えに進化しています。医療の民主化が地域の民主化であり、そこには常に学びがあり、理論と実践が繰り返されています。

その後、明治学院大学と関わりのある小諸市の小泉俊博市長、土屋政紀環境水道部長はじめ4名の方の訪問があり、花岡隆小諸市観光協会会長が加わり懇談会が持たれました。



写真（上）依田発夫先生（下）常盤館での講義光景

9月15日（金）

10時30分に佐久医療センターを訪問しました。

小林睦志佐久医療センター事務局長に迎えられ、佐久総合病院と佐久医療センターの機能、特徴、施設の説明が行われ、その後センターを見学しました。

佐久総合病院、佐久医療センターは「高度医療と地域医療の二足のわらじ」を継続しており、現在は佐久病院内での一貫型から予約、紹介型病院への変革が推進されています。

午後の特別講義は、夏川周介佐久総合病院名誉院長が「佐久病院の歩みと現状」をテーマに行われました。

主な内容は、佐久病院の歴史、長野県の地域特性と医療特性、医療活動と文化活動、佐久総合病院の5・3・2方式【入院（5）・外来（3）・地域医療（2）】で、予定時間では語り尽くせないほどでした。特に従来からの「予防は治療に勝る」の考えと同時に、現在のテーマとして「地域完結型医療への変換の必要性」を強調されていたのが印象的でした。

午後3時過ぎに佐久医療センターを出発し、明治学院大学と関係のあるマンズワインのワイナリーを見学し、その後、佐久平駅にて解散しました。



写真（上）医療センター、ドクターヘリの見学（中）講義中の夏川周介先生（下）講義会場での受講者

講義内容の詳細版をホームページに掲載します。

2017年度・秋のイベント特集

CCクラブ全体の活動として、10月7日（土）～8日（日）にみなと区民まつり、10月25日（水）に港区社会福祉協議会主催第2回港区地域福祉フォーラムそして11月5日（日）にはみなと子ども読書まつり・サイエンスワークショップに参加しました。

みなと区民まつり

心配された雨も初日開始時刻の11時にはほぼ上がり、2日目は暑いくらいの晴天に恵まれ、10月7日（土）8日（日）に港区芝公園一帯で開催された「みなと区民まつり」に、CCクラブも参加致しました。

CCクラブは、前年とほぼ同じ位置の都立芝公園エリア入り口にテントを設け、CCクラブの活動の紹介や、行政の福祉サービス（港区の「緊急通報システム」、東京都の「自動通話録音機」）の紹介を行いました。



前面はCCクラブ紹介パネルと販売コーナー
テント内ではハンドケア

また、8日（日）限定で芝CCクラブのアロマハンドケアの実演が行われ、多くの方が列に並び体験して下さいました。

両日にわたり、CCクラブ研修旅行でお世話になった岩手県西和賀町からの直送品（手作りジャムなど）の販売も行われました。社会福祉法人潤沢会「ワークステーション湯田・沢内」の石川紀文施設長が訪問され、地域交流を深めることができました。

2日間でCCクラブコーナーにはCCクラブ会員をはじめ多くの方が訪れました。

区民のふれあいの場として多くの団体が参加するみなと区民まつりにおいて、CCクラブも地域の交流に協力することができました。

会場全域で、CCクラブ会員がそれぞれの所属団体

や会場ボランティアとして活躍している姿も見られました。



テント前で順番待ちをする人とハンドケア

第2回港区地域福祉フォーラム

10月22日（日）、24日（火）、25日（水）に高輪区民センターで開催された第2回港区地域福祉フォーラムに、CCクラブからも運営協力として約30名が参加しました。



受付を担当するCCクラブ会員

このフォーラムは、港区社会福祉協議会が、ともに支えあい、安心して暮らせるまちをめざして開催するもので、福祉バザー、中井貴恵さん（女優）による音語り、増田明美さん（スポーツジャーナリスト）による講演会、「つながり、支えあうまちをつくるために」と題して河合克義先生（明治学院大学社会学部教授）がファシリテーターを務めるシンポジウムなどが行われ、そして地域福祉を支える様々な団体の活動紹介および発表がありました。

そのなかで、参加団体として、コミュニティ・カフェ高輪（高輪地区CCクラブ）、サロン麻布（3Aク

ラブ) と芝浦 2 丁目サロンが合同でカフェをオープンし、情報交換の場として利用される方、催しの合間にほっとひと休みされる来場者で賑わいました。

さらに、親子と一緒に参加できるコーナーでは芝CCクラブが折り紙教室を開きました。近くの保育園の保育士さんたちも参加し、今話題のパンダや Xmas ツリーなどの季節の折り紙を習っていきました。



来訪者で賑ったカフェと折り紙コーナー

区民ホールでの催しのなかでの「みんなといきいき体操」には介護予防サポーター・体操マスターとして多くの会員が参加しました。各展示コーナーでは民生委員・児童委員コーナー、防災士コーナー、老人会コーナーを始め多くのコーナーでグループで活動しているCCクラブ会員が活動状況の発表をしていました。

今回、2階のカフェコーナー周辺にCCクラブの展示コーナーがありました。CC大学の紹介、CCクラブの紹介、CCクラブの2016年度の活動状況、カフェ運営の3グループの紹介パネルを展示しました。

また、今回の社協のテーマに合わせ「CCクラブ会員のボランティア活動」のパネルを展示し、多くの方に見ていただきました。



CCクラブ会員のボランティア活動紹介パネル

みなと子ども読書まつり サイエンスワークショップ

11月5日(日)赤坂子ども中高生プラザ“プラザ赤坂なんで〜も”で、第5回みなと子ども読書まつりが開催され、CCクラブ会員が5つのサイエンスワークショップを行いました。



ワークショップに集まった子どもたち

「ぷちぷち!いくらを作ってみよう」では岩村道子さん(1期)、磯和子さん(1期)がアルギン酸ナトリウムを使った人工いくら作りを、「電磁気の実験」では青木稔さん(2期)がリニアモーターカーの仕組みを模型で説明しました。「星座盤を作ろう!」では入江誠さん(4期)から提供された材料で、小倉剛さん(7期)が星座早見盤を作って星座を探す説明を、「光と音声の謎」では野村知義さん(8期)が音声信号を光に変えて伝達する仕組みを説明しました。別室の「プログラミングに挑戦!」では斎藤正精さん(6期)のプログラム練習ソフトを使ったコーナーに、熱心な子ども達が集まりました。



興味深く説明を聞く子どもたち

■運営委員会報告

運営委員会報告

今年も様々なところで会員皆様の活発な地域活動を見聞きして元気をいただいております。運営部門では定例の部会、委員会、役員会を開催し、明治学院大学事務局のご協力のもとクラブ運営にあっております。7月総会、9月研修旅行、10月みなと区民まつりと社会福祉フォーラムなど皆様の参画とご協力のもと、年度初めの計画に従って順次活動を続けております。外部イベントではコミュニティ・カフェやハンドケアを出展し、同時にクラブ紹介パネルを展示して多くの会員や地域の方々との交流を深めました。このようにイベントに参加し、CC通信やホームページによってクラブから継続的に情報発信することにより、CCクラブのアイデンティティが高まり地域との絆を深めることに大きな力となっていることと確信しております。11月には昨年に続き、児童向けのみなと読書まつりでサイエンス・ワークショップを出展しました。多くの人材を抱えるCCクラブならではの多世代向け活動と言えるでしょう。(代表 斎藤正精)

2017年度運営部門メンバー追加報告

今年度、2つの部会で副部会長が選任されました。また、CC通信35号にて地域委員に誤りがありましたので再掲載いたします。

部 会 副 部 会 長		部 会 長	
企 画 部 会	岩村 道子 ①	総 務 部 会	岩佐 徳太郎 ⑨
地 域 C C ク ラ ブ (地 域 委 員)			
芝CCクラブ	高田 英夫 ⑧	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	斎藤 正精 ⑥
高輪地区CCクラブ	村岡 洋二 ②	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	及川 廣子 ⑥

■活動計画

2017年度CCクラブ「活動報告会・河合教授記念授業(仮称)」

2018年2月27日(火) 14:00~18:30

第1部 活動報告会と記念授業(14:00~16:30)

明治学院大学白金キャンパス 3号館 3201教室

第2部 CCクラブ交流会(16:45~18:30)

会場において活動紹介展示を行いますので、積極的に出展してください

詳細は同梱されています案内状をご覧ください

CC通信37号にて会員活動紹介「介護予防活動」を掲載する予定です。活動を紹介したい方は会報部会までご連絡ください。 連絡先 会報部会(太田) noriohta@cscpt.jp

編集後記

今年度第2号の36号では例年の定期総会・ホームカミングデイ・交流会に加え、佐久医療センターへの国内研修旅行、みなと区民まつり、港区地域福祉フォーラム、みなと子ども読書まつりサイエンス・ワークショップなど、CCクラブの外部のイベントへの参加を取り上げました。佐久研修旅行の詳細報告を近日中にHPに掲載の予定です。

よりよい会報にしていいため、皆様のご意見をお待ちしています。

(8期 山田紀子)



チャレンジコミュニティ通信 vol.36 2017年12月1日発行

発行者 チャレンジコミュニティクラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課
(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel.03-5421-1555 Fax.03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

http://www.minato-ccc.jp

表紙写真協力/平尾恭一様(9期)

会報部会

部会長 太田 則義(7期)

部員 大竹 裕(5期)

部員 忍足 恵一(6期)

部員 吉村 秀子(7期)

部員 榎本 和夫(7期)

部員 山田 紀子(8期)

部員 今井 美智(10期)